

まこと

Volume 63 No.8
AUGUST 2016



6月19日から7月14日まで、43回目となるハワイ修養会が開催され、ケビン・サスナーさん（ハレアカラ教会）が修了しました。

Tenrikyo Mission Headquarters of Hawaii

リレー巻頭言

教祖130年祭の年に、私たちみんながそれぞれのいんねんをどう切り替えたらいのかを、教えの根を掘ることによって悟らせていただき、少しでも陽気ぐらし世界へ近づかせていただけたらと思います。

1988年に初めて私が修養科で講師を務めさせていただくようになってから、たくさんの質問を生徒たちから尋ねられ、私自身もたくさんの疑問を持つようになり、答えを探してきました。その中の一つで今日まで誰も答えられていない質問があります。それはおさしづの翻訳についてです。三原典の中で、おさしづは2万以上あるお言葉のほんのわずかししか翻訳されていません。それはなぜなのか。道の将来を考えると、ほんのわずかししか翻訳されていないというのは心配になります。天理教の将来について心配しているのは私だけではないと思います。歴史が示すように、キリスト教の聖書は最終的に400年以上も後に人間の考えが教理に加えられて書き下ろされました。天理教は同じ過ちをしないようにしなければいけないと思います。

みかぐらうたとおふでさきは教祖によって直接書かれましたが、おさしづは筆録するように教祖は仰せられました。なぜ教祖は教祖の口、また本席・飯降伊蔵先生を通して出されたそれらのお言葉を書き記すように仰せられたのでしょうか。教祖のお言葉や親神様と人間とのやりとりの記録から私たちが少しでも成人させていただくために学ばせていただけることがたくさんあると思います。

おさしづからどのように学ばせていただくかの一例を挙げたいと思います。ある方が私に、体にお見せいただく障りで右側と左側では神様の思いに違いはあるのか聞きました。私は答えを見つける為に『既翻訳おさしづ集』を開き、すぐに1890年6月3日のおさしづの中にその答えを見つけました。

増田甚七左の目障り願

さあ／＼身上の処、右左は無いで。一寸の理は論してある。左善、右悪という理を論してある。どちらも身の内、難しい身上にも、軽き事情もある。軽き中にも難しい理がある。身の内の処、不足があればいろ／＼に思うやろ。思うも理である。身上案ぜる事は要らん。世上へ一つの理が治まってあれば十分という。(明治23・6・3 朝)

ここに答えがありました。右か左か、神の手引きか立腹か、どちらにしても同じ身の内に見せられていることで、大事な事は、そこには子供であるすべての人間をたすけたいとの親神様のたった一つの思いが込められているということを理解することです。

何気なくこのおさしづの1ページ前のお言葉を見たところ、1890年5月13日のこんなおさしづを見つけました。

これ程信心するのに、というような心の者皆多い。これではいかん。誠無い。受け取るものは無い。不足思えば不足になる。たんのうの事やが、受け取る事出来んで。不足思えば皆不足になるで。たんのうより受け取る事出けん。誠あればこそ、たんのうの心定まる。そこで、たんのうより受け取るものは無い。たんのうは誠。誠は天の理や。天の理なら誠より偉いものは無いで。この理をよく悟ってくれ。(明治23・5・3 補遺)

私の人生を変えるお言葉を見つけました！喜びの心以外の心の持ち方、考え方はありえないと仰せられます。このとても大切なたんのうの心の持ち方が私の暮らし方に欠いているものであると自覚しました。

神様は「たんのうより受け取る事出けん」と

仰せられます。喜びの状態とは喜び以外の気持ちはないのです。不足の心が入るスペースはないのです。「受け取る事出来んで」と仰せられるのです。それで終わりです。他にはなにもありません。喜びの心で満たされていなければいけません。

座りづとめの第一節で、あしきと唱えながら合掌の手をしますが、それは神の世界にはあしきは無いからです。合掌の手をするとき、陽気ぐらし世界を思い浮かべるよう教えられています。そこにはどんなネガティブやあしきの事はありません。陽気ぐらしの世界ではみんなが喜びを感じながら暮らす、そこに不足の心は全くありません。

さらにこのおさしづから1ページ戻ったところに次のようなお言葉を見つけました。

世上から見て成程あれでこそと言う心をめんへ持ってすれば、日々に皆んな受け取る。……世上から見ては、あれでこそ成程の人や、成程の者やなあという心を持って、神一条の道を運ぶなら、何彼の処鮮やかと守護しよう。(明治23・5・6)

神様は私たちに教えに沿った暮らしをし、成程の人になるよう教えられています。もし本当

に教えを理解したならば、言葉を発しなくても自然と行いにあらわれてきます。天理教の信仰者として、そのような行動や行いだけで他の人に成程なあと思われるような、成程の人にならせていただきます。

最後に明治25年2月8日のおさしづに、

これ一つ第一に定めにならん。よく聞き取れ。……これまでのさんげは言うまでやない。これより先という事情を定めねばならまい。(明治25・2・8)

と、あります。私たちがまず心を定めたら、神様は限りないご守護をこの世にお見せ下さるはず。まず心を定めれば、ご守護いただけるのです。

知りたいという素朴な疑問から、教えの根を掘り、これらのおさしづにたどり着き、拝読させていただく中で、いろいろと悟らせていただきました。しかしここで終わりではありません。悟らせていただいたことを実践しなければいけません。不足を無くし、感謝と喜びの心を持たせていただくべく心定めをし、成程の人になれるようにこれからも努めさせていただきたいと思います。

【齋藤コーリン】

全教一斉にをいかけデー

日時：2016年9月5日（月）午前9時～午前11時

場所：カパフルのパキパーク周辺（戸別訪問 or 清掃ひのきしん）

ひのきしんに参加される方は、掃除道具を持参してください。

熊本・エクアドル地震災害義捐金報告

熊本、エクアドルで発生した大地震を受け、ハワイ伝道庁では6月30日まで義捐金を募り、総額6,373ドルを寄せていただきました。その内5,000ドルを4月に天理教教会本部に、残りの1,373ドルを7月に天理教国際たすけあいネット（天理教海外部内）に届けさせていただきました。皆様のご協力、誠にありがとうございました。

7月月次祭祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、ハワイ伝道庁長山中修吾、一同を代表して、慎んで申し上げます。

親神様には、教祖をやしろにこの世の表にお現れ下さり、よろづ委細の元の実を教えて、陽気ぐらしへと導く道をおつけ下さいました。私共は、日々に親神様の御守護を感じ、ご存命の教祖のお導きを信じて、喜び勇んで暮らせていただいておりますと共に、思召に添う成人の努力を積み重ねております。その中でも、本日は当伝道庁の7月月次祭の日柄を迎えましたので、只今よりおつとめ奉仕者一同心を合わせ、座りづとめ・てをどりを陽気に勇んでつとめて、世界たすけへの真剣な祈りを捧げさせていただきます。御前には今日を楽しみに寄り集った道の兄弟姉妹が、勇んでみかぐらうたを唱和し祈念する状をもご覧下さいまして、親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

先月19日より受講生1名で開催させて頂いたハワイ修養会は、今月14日に無事に修了させて頂きました。今月15・16日に開催された天理フォーラム2016にはハワイより50名が参加し、集まった英語圏の教友と世界たすけへの情熱を分かち合い、よふぼくとしての意識と使命感を高めさせて頂きました。今月9日よりおぢばで開催中のおやさとセミナーには、ハワイより前期生6名、後期生2名が受講中ですが、カウンセラー共々一同元気に真剣に教祖の御教を学び実践させて頂いております。18日から24日にかけて開催される青年会インターナショナルひのきしん隊では、ハワイ青年会21名が尊い伏せ込みの汗を流させて頂きます。そして本年のこどもおぢばがえりには、天理道場の一行を含む90名余りが帰らせて頂きます。将来ハワイの道を担う若者たちが真夏のおぢばにて尊い伏せ込みの汗を流し、ぢばの理を体感し「をや」の理をしっかりと頂戴させて頂きたいと存じます。

私ども一同は一れつ人間の陽気ぐらしをお望み下さる親神様のお心に添わせていただき、教祖の道具衆として神一条喜び一条たすけ一条の道をハワイのこの地でしっかりと歩ませていただきます。この道にお引き寄せ頂いた私たちは今後も、をやのお心にしっかりと応えさせていただけるよう、日

々成人への努力を積み重ね、身近な所でひのきしん・にをいがけ・おたすけに精進させていただく所存です。何卒親神様には私共のこの真心をお受け取り下さり、ハワイの道が伸展し、世界中の人々が元の親を知り一れつ兄弟姉妹の真実に目覚めて、互いにたすけ合い睦み合う真の平和世界である陽気ぐらしの世の状へと一日も早く立て替わりますようお願いのほどを、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

祭典役割

祭主	山中庁長	
扨者	一瀬常德	柿谷節生
賛者	岩田バート	鈴木ダレル
指図方	中尾善宣	
講話者	山本浩徳	(日)
通訳者	井元ジャネス	(英)

	座りづとめ	前半	後半
てをどり (男性)	庁長 Y. 中尾 G. 本田	M. 稲福 S. 柿谷 S. 椎葉	S. 社本 D. 鈴木 N. 坂上
てをどり (女性)	庁長夫人 M. 柿谷 C. 明本	K. 齋藤 T. 中尾 R. 井上	S. 中尾 Y. 一瀬 L. 長田
笛	T. 美馬	Y. 宮内	T. 美馬
チャンポン	D. 川崎	B. 岩田	Jr. 本田
拍子木	R. 山	E. 高田	G. 井元
太鼓	M. 社本	H. 山本	S. 椎葉
すりがね	M. 岩田	T. 井上	M. 久尾
小鼓	C. 三國	G. 井元	Y. 宮内
琴	C. 美馬	K. 金川	L. 金城
三味線	M. 三國	M. 岩田	F. 伊藤
胡弓	J. 山	L. 本田	R. 宮内
地方	T. 西村 E. 高田	T. 一瀬 M. 久尾	M. 岩田 T. 井上

7月月次祭祭典講話

レファ布教所長 山本浩徳

本日はハワイ伝道庁7月の月次祭を皆さまとともに勇んでつとめさせていただき、ありがとうございました。

このたび、初めて伝道庁の月次祭講話の指名を頂きました。自分自身がこれまで学んできたこと、そして今感じていること、そして今後の目標についてお話をさせていただきます。

私は、日本の九州、宮崎県にある天理教日宮分教会で生まれ育ちました。中学卒業後は兄二人がおぢばの学校に進んでいたこともあり、兄と同じく天理教校附属高等学校、その後天理教校第二専修科へと進みました。

当時の学校制度は古き良き時代の日本、さらに男子校。たとえ白いものでも先輩が黒と言えば黒。未熟な若者が一から百まで徹底的に教えていただく懐かしい時代が残っていたときでした。とにかく自由時間はなく、先輩後輩の大人数に囲まれて朝から晩までおぢばでの日程をこなす。さまざまな気遣い、心遣いをしながらおぢばで伏せこむ、おぢばを守る。そんな天理教校の精神をより徹底すべく一貫教育として開校された学校での生活でありました。私は附属高校、第二専修科のこの8年間でいったい何を学んだのかと思出すとき、「気を遣うことを学ぶ」の一言です。朝、先輩や後輩を起こすときから夜寝るまでひたすら気を配り、気を遣うことでした。「言われてやるのはあたりまえ、言われる先にやるのが誠真実」とよくお仕込みを頂きながら「気を遣うこと」、「人と人とのつながり」を徹底的に学んだように思います。

最近の日本ではよく「おもてなしの心」という言葉が使われますが、「おもてなしの精神、最高のおもてなしを生み出すためには、相手からお願いをされる「その前」に人が喜ぶために気を遣い、何かをさせていただき行いだと思います。稿本天理教教祖伝逸話篇の「朝、起こさ



れるのと」のお言葉に「朝、起こされるのと、人を起こすのとでは、大きく徳、不徳に分かれるで」と教えていただく通りだと思うのです。誰よりも先に気づき、人のために行うことは、人に喜んでいただき、自分自身も喜ぶ、そして人と人とのつながりを得ていくことを知らず知らずのうちに学生時代に学んでいたのです。

そしておぢばでの8年間で過ぎ、天理教校第二専修科を卒業するにあたっていろんな進路がありました。その中で海外伝道庁派遣の話を受け、このハワイ伝道庁に22年前の1994年4月1日に派遣されました。三代真柱様ご夫妻をお迎えする伝道庁40周年の1カ月前だったため、日々たくさん教信者さん方がひのきしんに来られ、活気のあった当時は昨日のこのようにおぼえております。しかしそんな皆さんが勇んで忙しいさなかに、私は伝道庁に到着した翌日4月2日、ヌアヌにあるクワキニ病院に緊急で運ばれたのでした。もちろん初めての海外、そしてハワイに到着したばかり、まったく分からない英語、そして病院送り。

実は私自身の心の片隅で「なぜハワイにいるのだろうか」と自分自身の希望とちがった進路について納得できないところがありました。そんな心遣いに対して病院に送られ、盲腸という「ハラキリ」の身上を見せていただき、そこでようやく腹をくくってこの地でがんばらなけ

ればならないと気づかされたのでした。「叱られないほど不幸なことはない」と仕込まれながら育った私にとっては、このように身上をすぐに見せていただき、これまで「気づき」、「氣遣い」を十分に学んだと思いこんでいたにもかかわらず、神様からこのハワイで「気づき」を見せていただいたのでした。その後、このご縁を頂いて二度のハワイ伝道庁勤務として派遣され、海外部を退部後、永住権を取得して4度目としてハワイに戻り、2013年11月に念願の布教所を開所し、ハワイ滞在15年目を迎えています。これもすべて私自身の希望ではなく、「気づき」を通してお導きを頂いたからであります。

私がハワイ伝道庁を行き来する海外部在籍中、海外部が取り組んでいる「人材育成」の柱である「おやさと練成会」のスタッフとして御用をさせていただき、現在もこのハワイでその役を頂いております。1984年から始まったこのおやさと練成会英語コース、このハワイから参加した人数は総勢155名、そしてこの夏も前期、後期あわせて8名の学生が暑いおぢばで教理を学んでくれています。この伝道庁7月の月次祭の今、おやさと練成会をはじめ、青年会インターナショナルひのきしん隊、天理フォーラム2016に多くの若者が参加し、おぢばで伏せこんでいると思うとうれしいかぎりです。

改めて「伏せ込み」とは何でしょう。人のため、世のために一生懸命つくし、人や物、金銭を目標（めどう）とせず、親神様を目標（めどう）とし、一条に真実をつくしきることを「伏せ込み」と教えられています。

みかぐらうた七下り目の八ツに、

やしきハかみのでんぢやで
まいたるたねハみなはへる

「おさしづ」に、

日々嬉しい一つの種は、一粒万倍に成りて日

々治まりて来る。（明治24・12・19）

と仰せ下されています。

親神様一条に徹し、「伏せ込んだ」真実の種は、必ずいつかは一粒万倍となって現れてきます。そして私たちは先案じすることなく、一条に「伏せ込む」ことが大切であると教えられています。

2年前に念願のハワイ学生会が発足し、伝道庁の月次祭前日から泊まり込みをしてひのきしんをしておりますが、これも新しい「伏せ込み」のスタイルであり、またその前後のおやさと練成会に参加し、おさづけの理をいただいております。おさづけを取り次ぐよふぼくが誕生しているこの育成プログラムに、多くの学生が参加していただくよう、ますます呼びかけをしていただきたいと思います。

教祖130年祭の真柱様の神殿講話の中で「130年祭を勤め終えて、これからの歩み方を思案するとき、何にもまして、道の将来を担う人材を育成する必要性を強く感じる。また陽気ぐらし建設のために立ち働くよふぼくを育てること。そして信念を持って積極的におさづけを取り次ぐよう教え導くことも大切な人材育成である」とのお言葉をいただきました。私がこれまで御用をさせていただいた「人材育成」をさらに強化するキーワードは真柱様からのお言葉を聞かせていただいたとき、「伏せ込み」、「おさづけの取次」であると改めて感じました。

私はこの伝道庁月次祭が一ヶ月の中心であり、一番楽しみな日でもあります。この日はおつとめをさせていただくこと、教友皆さんとの再会、子どもたちのサンデースクール、アロハバンド、学生会活動、ジョイワークショップ、その他諸活動や会議と毎月1回のこの日が私にとっての「伏せ込み」や「人材育成」が一番感じる「陽気ぐらしデー」になっております。

私の思うたすかる、たすける道は、身上、事情によって思い悩んだり、行き先を失ったり、岐路に立った時に原点にもどって「伏せ込み」

を実感するしかないと思っています。誠真実をおぢばや、おぢばの出張り場所である伝道庁、そして各教会、布教所に尽くすことによってまいた種が必ず生えると思っています。

皆さん、今の時代の進化、変化はどうでしょうか。私が学生時代、おぢばで経験した大勢の人と人に囲まれ、自由もなく、テレビを見ることなく、コンピュータも携帯電話もない時代と比べると、今では想像もつかないほど進化、変化しました。ご承知の通り昨今のコンピュータの「性能の進化」によってこれまでできなかったこと、難しいことが簡単にできるようになり、人間の知能のはたらきを人工的に実現している人口知能が話題になっています。さらには「サイズの進化」によって現在では携帯電話のサイズでさまざまなことができるようになり、さらに進化して小さくなっていくのでしょうか。この小型の技術はいつのまにか目に見えないほどになり、1メートルの100億分の1というナノと呼ばれるサイズによって「ナノ医療」としてガン治療などが進められています。すべては人間の知恵による進化、コンピュータの進化によって進化、変化しているのです。このような進化するコンピュータ時代、情報あふれる今の時代にどのような「おたすけ」ができるのでしょうか。

「体」と「心」の病気がはびこる今日、「体の医療」に関しては人間の知恵の進化により目に見えないほどのサイズによってたすかっていく時代になっています。しかし「心の医療」も人間が知恵の進化によってつくられた物によってすべてがたすかることが今後できるのでしょうか。私たち「よふぼく」が今、推し進めるべき「人材育成」、「おさづけの取り次ぎ」は医療や人口知能のロボットが進化しても、人間の心の本当のたすけは同じ人間しかできないと思います。そのたすける側の人間とは私たち「よふぼく」であり、神様からお借りしているこの「体」と「心の自由」をもって推し進める時句であることに「気づく」時であると思うのであ

ります。では「気づき」のために具体的に何をすればよいのでしょうか。

ひとことはなしハひのきしん

にほひばかりをかけておく（七下り目一ツ）

お道のお教えどおり、一言の話をもっとたくさんの方々とすること、そして話を聞くことが大切だと思うのです。最近では人間らしい会話を可能としたロボットがありますが、プログラムによって特定の単語や意味を分析し、心のない言葉の返答パターンによってやりとりができるようになりましたが、十分なものではありません。

私たち人間は、人と話をするによって、相手の状況やどのようなたすけが必要なのか、私たち人間、よふぼくにはかならずロボットでは気づけない「気づき」が見えてくるはずで、私たちよふぼくはこの「気づき」によって、人と人とのつながりを重視し、「おさづけの取り次ぎ」のできるおたすけにつなげたいと思うのです。

これまでや今日の「感謝」、そして現実での「慎み」、そして今後の「たすけあい」によって、世の中が進化していく中であっても、お道の教えは変わることがありません。

「感謝、慎み、たすけあい」の陽気ぐらしのキーワードを再認識し、人が人を育てる「人材育成」の必要性に「気づき」、「おさづけを取り次ぐ」よふぼくの育成システムが構築できることを願っております。おぢば、伝道庁、教会に伏せ込んで真実の種をまく。そしておぢば、伝道庁、教会をもっと好きになり、お道の教えを理解し信じる。教えを信じれば必ず人が動きます。

そしてハワイ独自の「人材育成」と「おさづけを取り次ぐよふぼくの育成」のシステムを皆さんと共に作りあげていくことが、教祖140年祭に向けた私自身のスタートであり、目標であります。ご静聴ありがとうございました。

ハワイ修養会受講所感（ケビン・サスナー）

去年の11月に新しい生活を始めるためシアトルからマウイに移ってきました。しかしながら、鞆二つと12ドルだけで太平洋の真ん中を越えてくることは元々の計画ではなかったですし、現実的な人間がするようなことではないでしょう。それでもあれこれ考えているうちに色々なことが起きてくるのが人生であり、私の場合も例外ではありませんでした。マウイに着いて最初に会ったのが私の友人でした。彼は、私のように人生にうんざりしていて、マウイと一緒にいくことを勧めてくれた人で、彼は何カ月か先にマウイに来ていました。

私はハワイは初めてで誰も知り合いがいまいませんでしたが、天気が良く温暖でまさに南国ということは知っていました。逆に11月のシアトルは、すでに雨が多くとても寒いです。マウイに来る前は、暗闇のどん底に落ちていて、この先どうなるか分からないという状態でした。

マウイに着いて最初の問題はどうやって空港を出て、町に出るのかということでした。小一時間かけてバスに乗り、町のモールで降りて図書館に向かっているところでその友人にばったり出会ったのです。驚きとしか言いようがありませんでした。彼は、地元の人を紹介してくれて、シェルターに連れて行ってくれました。私は以前介護関係の仕事をしていたので、地元の新聞に在宅介護の広告を載せました。そして電話を下さったのが日本人の女性でしたが、その方の家の隣にハレアカラ教会があったのです。天理教の看板を見たときに、25年以上前にシアトルで調べていた「天理教」だとは気が付きませんでした。その頃は、それまで信仰していた教えに不満を感じるようになり、東洋哲学に興味を持って調べていました。

そして、1カ月後にその方が出直したことで

在宅介護の仕事は終わりました。ハレアカラ教会のタッド会長は私に近づき、これからの人生について尋ねてくれましたが、私自身何も決まっていませんでした。タッド会長は私の境遇に興味を持たれ、手を差し伸べたいと渴望させる何かを私に見たのでしょうか。私は「親神様」を信じてみることにしました。

タッド会長は、深い思いやりと親心を持って、私の状況を祈ってくださり、もし良ければ一緒に「おたすけ」の御用をしないかと尋ねてくれました。私もそれは素晴らしいと伝えました。

いつも自分より大きな何かのために生きていたいと思っていました。自らの行いに戸惑い、不満な気持ちでいるにもかかわらず、どんな方法でもここにいる自分が何かを尽くすことで世界がほんの少しでも良くなればと考えていました。

私は特に長い人生プランも無かったので、親神様が導いてくださる方向に素直に従いました。伝道庁での修養会の話聞いたときも受講したいと強く思いました。そして、ハレアカラ教会の朝夕のおつとめ、月次祭に参拝するようになり、おてふりを習い『天理教教典』や『教祖伝』を読むようになりました。日本語も少し習いましたが、どんなときもタッド会長の温かく親切な親心を受けていたように思います。

ハレアカラ教会での2カ月半にわたる「事前研修」が終わり、唯一の受講生として修養会に入るためハワイ伝道庁にやってきました。これは冒険的であり、また自分の気持ちを比べる相手がいないという意味ではさみしさも感じるものでした。でも素晴らしい講師の方々に恵まれました。彼らと語り合う時間は心地良いもので、皆さんのことをとても好きになりました。

講師の皆さんは、教理で大切なポイントを明らかにしてくださり、私に自信をつけてくださいました。

私はすぐにこの教えに共感することができました。まるで大きな岩を上から見たり下から覗いたりするようにして、自分の視野をひろげ、目前にひろがる広い現実を見つめることができました。

今まで自分を困らせてきた出来事が、なぜ起きていたのか急に理解できるようになりました。自分に起こり続けることには理由があり、目的があり、原因があったのだと受け入れられるようになりました。起こってきたことを疑問に感じるのではなく、自分で正すべきことは正して、あとは喜んで受け取ることが大切なのだと思えるようになりました。

私は自分のいんねんについて深く納得し、親神様に対して深い信頼を持つことができました。それは、これまでの人生でその時々私に置かれていたことに気づいたからです。そして今までの経験があって今の自分があるのですが、それらの経験を積むことも親神様のお働きだったのです。

修養会では、てをどりや鳴物を習い、日々の習慣や礼儀を学び、それに何とか適応することで自分を高めることができました。葛藤やフラストレーション、冷めた気持ちになった時もありました。でもそれはまるで太陽を覆う「雲」



のように、一時的な心の状態だと分かっていたので、その「雲」を掴まなければやがて空は晴れて、もう一度自信を持ってこの「旅路」を歩むことができました。全ては自分の成人のためのプロセスでありました。その日その時を献身の心で精一杯に過ごしました。

乗り越えるには大きすぎると思われる物事でも、赤ちゃんのような歩みで少しずつ、そして忍耐強く進めば成し得るのであり、陽気ぐらしという新たな人生の目標に向かって歩み続けました。

学びの場では自分の間違いや失敗に気付きました。西洋の世界からやって来て、新たな文化、宗教、言語、方法に浸ることは、私が乗り越えるべき障害であり挑戦でした。そうです、失敗は選択肢の一つではなく、必然なのです。どん底に飛び込むことで、良いこと悪いことにかかわらず自分自身を知ることができるのです。でも飛び込むことをしなければ、何も学べず成長できません。ただ安全で安心で停滞した忘却の世界に陥るだけです。

やまさかやいばらぐろふもがけみちも
つるぎのなかもとふりぬけたら

まだみへるひのなかもありふちなかも
それをこしたらほそいみちあり

ほそみちをだん／＼こせばをふみちや
これがたしかなほんみちである

(1号-47、48、49)

この旅は一時ではなく一生続くものであり、合言葉は逆境力と忍耐力。多くのものをすぐに求めず、すぐに落ち込まずに、前向きに生きる。今意識しているよりも修養会で多くのことを学

び、その学んだ経験、努力を今後の生活に活かしていけると思います。

東洋の精神的な言葉に「フレグランス・ラーニング」という言葉がありますが、無意識のうちに吸収するという意味になりましょう。それは線香立ての横を通り過ぎただけで、衣服がその香りに染まってしまうように、私たちは偶然そこに居るだけで、その場所の雰囲気いつの間にか影響されているのです。

お道の教えが私の意識からゆっくりと潜在意識へと溶け込んでいったとき、それらが将来への種となり、弛まぬ努力と献身により、やがては芽が吹き実を付けることでしょう。そうして親神様・教祖の御心に近づかせていただき、おたすけに役立つよふぼくとならせていただけるのではないのでしょうか。

私は、かつて望んでいた通りに物事がうまくいかなかったことに感謝しています。ダグラス・アダムスの言葉にも「僕は自分が行こうとしていたところにたどり着けなかったが、僕が行かなくてはいけない場所にたどり着いたよう

だ」とあります。

庁長先生ご夫妻、伝道庁スタッフの皆様から感謝し、皆様の温かいおもてなしがどれだけ有り難かったかと伝えたいです。皆様から愛情一杯にお世話頂いたこと、そして親身になってお導き頂いたことを思い出します。そして、私の人生の目的や意味を見つけるためにこのような機会を頂きましたが、大きな親心で私たちをお見守りくださり、お世話くださる存命の教祖によって開かれたこの陽気な道に沿って、いつか私もおたすけの御用をさせていただけたらと願っています。

いまゝてはながいどふちふみちすがら
よほどたいくつしたであろをな

このたびハもふたしかなるまいりしよ
みへてきたぞへとくしんをせよ

(1号-55、56)

本当にありがとうございました。

婦人会だより

おやさとセミナー、天理フォーラム、インターナショナルひのきしん隊、こどもおぢばがえり、夏のおぢばでは沢山のハワイの人たちが伏せ込みの汗を流されました。締め括りは天理教バザーです。「親切でフレンドリーな天理教の人たちに会えるバザーに行くのが楽しみ」という電話も頂いています。教祖から教えて頂いたお道の「おもてなしの心」で皆様に喜んで頂きましょう。

■ヌアヌハレ慰問

8月13日(土) 9:30

■婦人会例会

8月15日(月) 9:00 於:TCC

※会議後バザーひのきしんを行います。

■バザーひのきしん 9:00 於:TCC

- ・漬物作り 8月16日(火)
- ・漬物パッキング 8月17日(水)
- ・TCC大掃除 8月20日(土)
- ・おでん仕込み 8月25日~27日
- ・天ぷら仕込み 8月25日~27日
- ・やきそば仕込み 8月27日(土)

※ウエストハウスでのバザーひのきしんに参加頂いた皆様ありがとうございました。

※8月の鳴物練習はありません。

※今月の月次祭直会当番は、本島グループです。よろしくお願ひします。

青年会だより

■キクチ・カイル新委員長挨拶

7月24日、青年会インターナショナルひのきしん隊解散式後に、青年会長様よりハワイ青年会委員長として正式な任命を受けました。このような素晴らしいハワイ青年会の指揮をとらせていただけることをありがたく思います。ひのきしん隊中に世話班の方と話をしていると、ハワイのメンバーは本当に協力的で精力的に動いてくれていたと聞かせていただきました。ほとんど寝ずに、真夏の炎天下のもと不満も言わず動いていました。中尾ルイス、川崎バートの二人はハワイメンバーをよく引っ張ってくれました。岡田リンカーンとジェファーソンは日課の通訳をつとめてくれました。そして、中尾モーゼス前委員長は、今回ハワイから参加した21名の隊員をうまくまとめてくれ、細かいところに目を配ってくれていました。ハワイ青年会の強みは質の高いよふぼくに恵まれていることです。新委員長としてつとめるにあたり、このようなメンバーに恵まれたことを誇りに思います。ハワイだけでなく海外にいる「兄弟」が良きよふぼくとしてのモデルを示してくれています。2週間のひのきしん隊でそんな兄弟たちの誠実を目の当たりにして、本当に勇ませていただきました。そして、いつも忍耐強く支えてくれている妻のミシェルに感謝しています。

天理教青年会は2年後に100周年という節目を迎えます。青年会長様は、親子や夫婦の問題があってはすぐれたよふぼくにはなれないと仰っています。親神様にお喜びいただけるよう、私たちが天地のモデルとして世に映していく必要があります。私自身、夫として、また子として家庭でもより一層励んでいきたいと思えます。教祖に心合わせて皆様と一緒につとめさせていただきます。皆様の愛と支えに感謝し、最善を尽くして委員長の任をつとめさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

少年会だより

■天理教バザー

今月28日に開催されるバザーでは、多くの少年会員、またその家族も一緒にひのきしんに参加していただきたいと思います。当日は、子供たちが、駐車場付近や火の周り、混雑している場所などで危険な行動を取ることがないように見守っていただくをお願いします。安全を守って素晴らしいバザーにしましょう。

女子青年だより

■天理教バザー 8月28日(日)

女子青年の焼き菓子ブースにご協力をお願いします。バザー前日の27日午前10時までに、焼き菓子のドネーションを伝道庁までお寄せください。

■こかん様に続く会 9月24日(土)

場所、内容については後日お伝えします。

8月行事予定

- 1日(月)・月例をいがけデー
- 3日(水)・庁長帰任
- 4日(木)・バザーブースヘッド会議
- 8日(月)・前川佳奈子部員着任(～9/1)
 - ・天理文化センター月次祭
 - ・婦人会委員会
- 9日(火)・月例コミュニティひのきしん
- 13日(土)・婦人会ヌアヌハレ慰問
- 15日(月)・婦人会例会
 - ・新青年 岩田祥孝着任
- 17日(水)・青年会会議
- 20日(土)・学生会ひのきしん
- 21日(日)・月次祭
 - ・サンデースクール/アロハバンド
- 22日(月)・ワイキキ神名流し
- 26日(金)・遥拝式
 - ・青年会教祖伝勉強会
- 27日(土)・バザーお願いづとめ
- 28日(日)・天理教バザー

TENRIKYO HAWAII DENDOCHO

2920 Pali Highway Honolulu, HI 96817

Phone : (808)595-6523 Fax : (808)595-7748

E-mail : dendocho@tenrikyo-hawaii.com

感謝、慎み、たすけあい

陽気ぐらしのキーワード

第46回天理教バザー

日時：2016年8月28日（日）午前8時半～午後2時

場所：天理文化センター（2236 Nuuanu Avenue, Honolulu, HI 96817）

天理教バザーは、ハワイ管内の教友が集い、親交を深めながら地域社会に貢献できる場です。バザーが長年にわたり続いているのは、ひのきしんに励む教友の方々の誠真実があつてこそです。今年もぜひ皆様のお力添えを賜りますよう、どうぞよろしくお願い致します。

バザードネーションの受付日時・場所は以下の通りです。

8月14日(日)～24日(水) 午前10時～午後4時 於：天理文化センター

***家具、電化製品、コンピューターなどは、お引取りできません。**

スクリップ、チキンチケットは伝道庁、またはお近くの教会でお求め下さい。バーベキューチキンにはチキンチケットが必要です。お間違えのないようお願い致します。詳しくはハワイ伝道庁（595-6523）まで。